

第4期中期目標期間中期計画進捗管理シート 【令和4事業年度：1年目／6年間】

令和6年2月

国立大学法人
鳥 取 大 学

I 教育研究の質の向上 - 1 社会との共創

中期目標【1】	人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①							
中期計画1－1	鳥取大学憲章の目標である「国際・地域社会への貢献及び地域との融合」の下、様々なステークホルダーと協働・連携して、地域の創生・イノベーションに貢献する研究・教育の推進や地域の経済・社会の活性化に貢献するため、地域価値創造研究教育機構が中心となり、「地域創生人材育成・定着推進協議会」（鳥取県の創生の核となり得る人材の育成と県内への定着を推進するため県内の高等教育機関、自治体、経済団体等が連携して設置しているもの）の枠組みを拡充・強化した「とっとり地域連携プラットフォーム（仮称）」の構築を進める。 本プラットフォームをベースに、地域価値創造研究教育機構が各部局と連携し、学生向け教育として、地域への関心を高め、知識や実践的なスキルを身に付けることのできる「地域創生推進プログラム」の拡充、地域から持ち込まれた問題の解決に授業で学生が主体的に行う課題解決型学習を始めとした「地域実践型学生教育」の推進等に取り組む。 また、教職員・学生と地域のパートナーがそれぞれの有する専門知識や経験を発揮することで、互いの強みを生かして人口希薄化地域が抱える様々な課題発見、解決策の探索を行う「地域参加型研究プロジェクト」を推進する。							
当該組織	地域価値創造研究教育機構							
評価指標区分	評価指標 [■：提出用、▲：提出用（サブ項目）、□：学内用（目標値あり）、 ○：学内用（目標値なし）、●：学内用（ビジョン2030）]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標3]	【1－1－1】地域実践型学生教育（地域創生推進プログラムを含む）履修者が地域の課題解決に取り組んだ件数（累計値）	年間30件以上	69件					
■[指標13]	【1－1－2】地域参加型研究プロジェクトにおける研究成果の社会実装件数（累計値）	第4期終了時累計60件以上	5件					
中期計画1－1		進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績1	「とっとり地域連携プラットフォーム（仮称）」の構築状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績2	地域創生推進プログラムの拡充状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績3	地域実践型学生教育の推進状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績4	地域参加型研究プロジェクトの推進状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績5	みなし地域参加型研究プロジェクトの推進状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 ― 1 社会との共創

中期目標【1】	人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①							
中期計画1－2	学生と地元企業の広範・多様な交流を促すことにより、地域の担い手として育成した学生の地域における定着・活躍を促進するため、地域価値創造研究教育機構では、学生が課外における主体的・自主的な地域貢献へ取り組む「学生スモールCoREプロジェクト」や鳥取県内5つの高等教育機関が連携して取り組む「地域創生人材育成・定着推進事業」を推進する。 地域価値創造研究教育機構は、各部局と連携して本学の多彩な知的・人的リソースを活用し、社会人が地域の創生・イノベーションに必要とされる資質・能力を獲得・アップデートすることができる実践的・体系的な「リカレント教育プログラム」の開発・展開を推進する。 また、住民に地域の創生等を支える教養を身に付ける機会を提供するエクステンション活動等の「地域実践型社会教育」を推進する。							
当該組織	地域価値創造研究教育機構							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標23]	【1－2－1】学生Small CoRE Projectや地域人材定着事業(インターンシップ、地域・企業との交流活動等)参加者の県内就職率	全学の県内就職率以上	58.3%					
■[指標35]	【1－2－2】リカレント教育プログラムの社会人受講者数【全学】 ※医学部附属病院の「共学講座」を除く	第4期終了時年間20名以上	356名					
■[指標44]	【1－2－3】地域実践型社会教育(エクステンション活動等)への参加者の満足度【全学】	第4期終了時70%以上	98.5%					
中期計画1－2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績6	学生Small CoRE Projectの推進状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績7	地域創生人材育成・定着推進事業の推進状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績8	リカレント教育プログラムの開発・展開の推進状況(①及び②)	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績9	各部局におけるリカレント教育プログラムに係る取組状況(③)	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績10	地域実践型社会教育(エクステンション活動等)の推進状況(①及び②)	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績11	各部局における地域実践型社会教育(エクステンション活動等)に係る取組状況(③)	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 ― 2 教育

中期目標 【2】	学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。⑤							
中期計画 2-1	鳥取大学が提供する教育の質と学生の学修成果の水準等を自ら保証する 内部質保証システム として、教育支援・国際交流推進機構が中心となり、各学部・研究科における教育プログラム、学生受入れ、施設・設備及び学生支援に関する 自己点検・評価の定期的な実施、教学データの収集・蓄積 、教員の授業改善等を目的とした「 授業アンケート 」、学生支援の質向上等を目的とした「 学生生活実態調査 」、本学の教育効果や学生の学修成果の把握等を目的とした卒業（修了）生や就職先企業向け「 鳥取大学教育力アンケート 」等の 体系的調査の実施 、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる 能力等の修得度の把握 等について、全学的かつ継続的に取り組む。 また、これら評価・調査結果、大学が収集・蓄積したデータ等を組み合わせた分析、学修成果の可視化結果、ステークホルダーからの意見聴取結果等を 各学部・研究科での教学マネジメントや全学的なエンrollment・マネジメントに活用 することにより、組織的な改善・向上活動及び 情報公表 に取り組む。							
当該組織	教育支援・国際交流推進機構・学生部、大学評価室・総務企画部							
評価指標 区分	評価指標 [■：提出用、▲：提出用（サブ項目）、□：学内用（目標値あり）、 ○：学内用（目標値なし）、●：学内用（ビジョン2030）]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標51]	【2-1-1】教育の内部質保証システムの運用状況（【毎年度実施】全教育プログラムに対する自己点検・評価実施率100%、改善を要すると判定された事項に対する実施計画の進捗管理、自己点検・評価結果の学外公表率100%）	毎年度実施	①全教育プログラムに対する自己点検・評価実施率100%【2点】 ②改善すると判定された事項に対する実施計画の進捗管理【2点】 ③自己点検・評価結果の学外公表率100%【2点】					
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上 （判定：C～S）	A					
中期計画2-1		進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績12	自己点検・評価の定期的な実施状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績13	教学データの収集・蓄積状況 教学IRに関する取組状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績14	授業アンケートの実施及び分析状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績15	学生生活実態調査の実施及び分析状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 － R05実施予定	R5	R6	R7	R8	R9
実績16	鳥取大学教育力アンケートの実施及び分析状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 － R06実施予定	R5	R6	R7	R8	R9

実績17	卒業時アンケート、修了生アンケート、就職先企業アンケート等の実施及び分析状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績18	DP能力修得度の可視化の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績19	各学部・研究科での教学マネジメントの取組状況 全学的なエンロールメント・マネジメントの取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績20	自己点検・評価結果の情報公表	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 - 2 教育

中期目標【2】	学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。⑤						
中期計画2-2	教育研究におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進及びデジタルキャンパスの実現による教育の質と学修成果の向上を目指し、本学のDX推進構想に基づき、 教育DX推進計画を策定 する。教育支援・国際交流推進機構、情報基盤機構、附属図書館及び各学部・研究科が連携し、 デジタルコンテンツやデジタル技術の活用により授業改善 に取り組む。 また、多様な学修者への対応や教室外の学修に利用しやすい 図書館施設及び学習支援環境の整備 に取り組む。 総合的学修支援(Quality of College Life)の充実を図るため、教育支援・国際交流推進機構が中心となり、学生が自らの目標に向けた学びと成長を実感しながら自分に最も適した学修が行える「LMS-eポートフォリオビルディングシステム」を全学部を導入し、入学時から卒業時までの継続的な学びの結果である 学修成果の可視化と結果のフィードバックを行うとともに、第三者評価や教育プログラムの見直し等に活用 する。						
当該組織	教育支援・国際交流推進機構・学生部、情報基盤機構、総務企画部、附属図書館						
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値				
■[指標92]	【2-2-1】教育DX推進計画の進捗状況(【毎年度実施】「教育DX推進計画」の項目別達成率による計画の進捗管理、社会の動向やICTの発展を踏まえた計画の見直し)	毎年度実施	①教育DX推進計画」の項目別達成率による計画の進捗管理【0点】 ②社会の動向やICTの発展を踏まえた計画の見直し【0点】				
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上(判定:C~S)	C				
中期計画2-2		進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績21	教育DX推進計画の策定及び実施状況 DX化に向けた各項目の取組状況 社会の動向やICTの発展を踏まえた計画の見直し状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績22	授業等におけるデジタルコンテンツ活用による教育効果の測定手法の開発	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績23	授業等におけるデジタルコンテンツやデジタル技術の活用状況や改善状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績24	情報インフラ、図書館環境や学習支援環境の整備状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績25	4学部における学修成果(DP能力修得度の可視化結果等)の学生へのフィードバック状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8
実績26	4学部における学修成果(DP能力修得度の可視化結果等)の学部・学科での活用状況(第三者評価や教育プログラムの見直し等も含む)	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8

I 教育研究の質の向上 ― 2 教育

中期目標【3】	特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥							
中期計画3-1	本学の基本理念「知と実践の融合」の下、「鳥取大学ビジョン2030」に掲げた新しい社会に求められる人間力を身につける教育及び新しい社会のニーズに応える専門教育を推進するため、教育支援・国際交流推進機構が中心となり、人間や歴史文化、自然・社会等についての理解を深め、人間として大切な幅広い教養が身につくよう全学共通教育の再構築を行うとともに、数理・データサイエンス及びAIに係わる基本的な知識及び技術の習得から各専門分野において活用できる能力の涵養まで行う数理・データサイエンス教育に取り組む。 学士課程において、学生の課題発見・理解や問題解決の能力向上に資する専門教育だけでなく、地元及び海外の地域をフィールドとし、課題を見つけて解決策を探ることができる実践教育として、プロジェクト型学習、デザイン思考教育、フィールド演習、学外実習や職場体験等に取り組む。							
当該組織	教育支援・国際交流推進機構・学生部、地域学部、医学部、工学部、農学部							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標106]	【3-1-1】数理・データサイエンス教育の充実状況(【毎年度実施】開講授業科目数や受講者数の経年変化、授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上)、社会の動向や新課程「情報」を踏まえた科目構成や授業内容の見直し)	毎年度実施	①開講授業科目数や受講者数の経年変化(一点) ②授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上)(2点) ③社会の動向や新課程「情報」を踏まえた科目構成や授業内容の見直し(2点)					
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上(判定:C~S)	A					
■[指標114]	【3-1-2】卒業時以降の学生満足度(全学部平均)	第4期終了時75%以上	R6年実予定(教育力アンケート)					

■[指標115]	【3-1-3】各学部における実践教育の取組状況(【毎年度実施】実践教育に係る開講授業科目数や受講者数の経年変化、授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上)、卒業時アンケートにおける学生の課題発見・理解や問題解決等の設問に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上))	毎年度実施	①実践教育に係る開講授業科目数や受講者数の経年変化(一点) ②授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上)(3点) ③卒業時アンケートにおける学生の課題発見・理解や問題解決等の設問に関する結果(肯定的回答率第4期終了時75%以上)(2点)					
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上 (判定:C~S)	A					
中期計画3-1		進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績27	全学共通教育の再構築状況	進捗判定* (I~V)	R4 - R05実施予定	R5	R6	R7	R8	R9
実績28	数理・データサイエンス教育の取組状況(特徴的な教育方法、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績29	各学部における「学生の課題発見・理解や問題解決の能力向上に資する専門教育」の取組状況(特徴的な教育方法、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績30	各学部における実践教育の取組状況(特徴的な教育方法、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績31	各学部における人材育成に係る取組状況(就職状況や学修成果の把握も含む)	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績32	医工学教育プログラムの整備・充実化に向けた取組状況、教育の取組状況(特徴的な教育方法、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9
実績33	高校との連携や高大接続に係る取組状況	進捗判定* (I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9

I 教育研究の質の向上 - 2 教育

中期目標【4】	研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)⑦								
中期計画4-1	「鳥取大学ビジョン2030」に掲げた新しい社会のニーズに応える専門教育及び研究者として必要な基礎的素養及び専門知識の応用力を涵養する教育を推進するため、大学院課程(修士・博士前期)において、地域から地球規模までの課題を理解し、最新の知識や技術を駆使してその解決に果敢に挑戦できる能力を身につけさせる高度な専門教育を実施するとともに、地元及び海外の地域をフィールドとし、課題を見つけて解決策を探ることができる研究型実践教育に取り組む。								
当該組織	持続性社会創生科学研究科(地域学専攻・工学専攻・農学専攻・国際乾燥地科学専攻)、医学系研究科(医科学専攻・臨床心理学専攻)								
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
■[指標141]	【4-1-1】修了時以降の学生満足度(全研究科平均)	第4期終了時75%以上	R6年実予定(教育力アンケート)						
■[指標142]	【4-1-2】各研究科(修士・博士前期)における研究型実践教育の取組状況(【毎年度実施】研究型実践教育に係る開講授業科目数や受講者数の経年変化、授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時70%以上)、修了時アンケートにおける学生の課題発見・理解や問題解決等の設問に関する結果(肯定的回答率第4期終了時70%以上))	毎年実施	①研究型実践教育に係る開講授業科目数や受講者数の経年変化(一点) ②授業アンケートにおける理解度や達成度に関する結果(肯定的回答率第4期終了時70%以上)(3点) ③修了時アンケートにおける学生の課題発見・理解や問題解決等の設問に関する結果(肯定的回答率第4期終了時70%以上)(3点)						
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上(判定:C~S)	S						
中期計画4-1		進捗判定*(I~V)	R4 II	R5	R6	R7	R8	R9	
実績34	各研究科・専攻における「地域から地球規模までの課題を理解し、最新の知識や技術を駆使してその解決に果敢に挑戦できる能力を身につけさせる高度な専門教育」の取組状況(特徴的な教育方法、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定*(I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績35	各研究科・専攻における研究型実践教育の取組状況(特徴的な教育方法、研究指導、教授方法の改善、得られた教育効果も含む)	進捗判定*(I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績36	各研究科・専攻における人材育成に係る取組状況(就職状況や学修成果の把握も含む)	進捗判定*(I~V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績37	医工学教育プログラムの整備・充実化検討状況	進捗判定*(I~V)	R4 II	R5	R6	R7	R8	R9	

I 教育研究の質の向上 - 2 教育

中期目標【5】	学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。⑫								
中期計画5-1	深く考え抜く力(省察力)を土台とし、自律的に行動するグローバル人間力、相互作用的にツールを活用するグローバルリテラシー、異質なグループにおいて相互に関わりあうグローバルコミュニケーション力を備えた人材を養成するため、教育支援・国際交流推進機構国際交流センターが中心となり、本学の特色であるG-Frenz(学内外の国際交流を促進する活動を日本人と留学生が協働して行う学生団体)の活動を含む日本人等学生と外国人留学生との「協働学習プログラム」の開発・実施、海外拠点オフィス等を活用した海外派遣プログラム「鳥取大学Global Gateway Program」による海外実践教育や海外協定校との「協働実践プログラム」の開発・実施や改善、外国人留学生に対する日本語教育や文化・社会に関する教育、地域の多様な課題をテーマとした実践交流活動や実践教育プログラムの実施等に取り組む。								
当該組織	教育支援・国際交流推進機構・学生部								
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
■[指標156]	【5-1-1】国際交流活動(協働実践プログラム等)の参加によってグローバル能力が向上した学生割合(参加学生対象)	第4期終了時点で80%以上	83.2%						
■[指標157]	【5-1-2】国内外で実施する「協働実践プログラム」等の国際交流活動に参加した学生の満足度(参加学生対象)	第4期終了時点で80%以上	96.7%						
■[指標158]	【5-1-3】外国人留学生に対する教育及び国際交流事業に対する満足度(参加した外国人留学生)	第4期終了時点で80%以上	96.9%						
中期計画5-1		進捗判定*(I～V)	R4 II	R5	R6	R7	R8	R9	
実績38	全学共通科目におけるグローバル教育科目の設置状況(選択必修化も含む)	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績39	日本人等学生と外国人留学生との協働学習プログラムの開発・実施状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績40	鳥取大学Global Gateway Programによる海外実践教育の実施状況や改善状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績41	学部・研究科固有の海外実践教育の実施状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績42	海外協定校との協働実践プログラムの開発・実施状況(国内・国外)	進捗判定*(I～V)	R4 II	R5	R6	R7	R8	R9	
実績43	外国人留学生の実践交流活動の実施状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績44	外国人留学生の実践教育プログラムの実施状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	
実績45	海外安全教育セミナーの実施状況	進捗判定*(I～V)	R4 III	R5	R6	R7	R8	R9	

I 教育研究の質の向上 ― 3 研究

中期目標 【6】	真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭							
中期計画 6-1	地域課題の解決から世界に展開する本学の研究推進の遺伝子を受け継ぎ、それぞれの分野で国内外の研究をリードするため、研究推進機構と関係部局が連携し、本学の強み・特色である研究拠点活動を更に加速させる。乾燥地科学分野ではシーズ創出研究の推進、染色体工学分野では基盤技術開発等の研究推進、地域の天然未利用資源科学分野では資源利活用に向けた研究の充実に向けて重点的に取り組む。 また、研究推進機構が中核となり、テーマを設定するトップダウン型研究及び研究者の発意に基づくボトムアップ型研究により本学の次世代研究を開拓する戦略的研究事業に取り組む。							
当該組織	研究推進機構、国際乾燥地研究教育機構・乾燥地研究センター、染色体工学研究センター、学長室IRセクション・総務企画部							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標186]	【6-1-1】研究拠点(乾燥地科学)における国際共著論文の件数割合(累計値)	第4期全体の国際共著率70%以上	78.26%					
■[指標187]	【6-1-2】研究拠点(染色体工学)における査読付き論文数(累計値)	第3期総数より10%増(33件以上)	9編					
■[指標188]	【6-1-3】研究拠点(天然未利用資源科学)における製品化の件数(累計値)	第4期終了時累計20件以上	7件					
■[指標212]	【6-1-4】次世代研究分野形成支援件数	年間4件以上	9件					
中期計画6-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績46	乾燥地科学分野におけるシーズ創出研究の取組状況【ミッション1】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績47	染色体工学分野における基盤技術開発等の取組状況【ミッション2】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績48	志を抱く人が集い自己実現できる街づくり・文化醸成プロジェクトの取組状況【ミッション3】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績49	地域の天然未利用資源科学分野における資源利活用研究成果の社会実装化に向けた取組状況【ミッション4】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績50	各学部・研究科における強み・特色のある研究の活動状況【ミッション1～4以外】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績51	次世代研究分野形成支援(戦略的研究事業)の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9

I 教育研究の質の向上 ― 3 研究

中期目標 【6】	真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭							
中期計画 6-2	次世代を担う研究者を育てる総合的な研究支援を強化するため、研究推進機構の企画立案による 科研費等の基盤研究費獲得支援 、研究推進機構と技術部の協働による 研究設備の整備・共同利用促進・技術サポート強化 、附属図書館による 電子ジャーナル・データベース・電子書籍の整備・利用促進 、鳥取大学研究成果リポジトリ等を活用した 本学研究成果の発信支援 等に取り組む。							
当該組織	研究推進機構・研究推進部、附属図書館							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標215]	【6-2-1】若手研究者の科研費採択率	第3期平均採択率の1.1倍(24.3%以上)	33.6%					
■[指標218]	【6-2-2】【11-2-1】 研究設備の共同利用件数(累計値)	第3期総件数より10%増(●件以上)	9,583件					
■[指標219]	【6-2-3】鳥取大学研究成果リポジトリへの登録件数(年平均値)	第4期年平均300件以上	348件					
中期計画6-2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績52	科研費等の基盤研究費獲得支援の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績53	研究設備の整備・共同利用促進・技術サポート強化の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績54	電子ジャーナル・データベース・電子書籍の整備、利用促進に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績55	鳥取大学研究成果リポジトリ等の活用促進に向けた取組状況(研究データ関連の規則整備や研究データの登録も含む) 本学研究成果の発信支援状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 ― 3 研究

中期目標【7】	地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮							
中期計画7-1	地域の知の拠点として新しい価値を生み出し、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、世界の変革や環境問題解決に貢献するため、研究推進機構と関係部局が連携し、乾燥地の持続性向上に資するイノベーション創出研究や鳥取大学協創連携部門を活用した企業との共同研究開発、医工農連携による協創型異分野融合研究プロジェクト等を推進することによって、社会実装につながる研究成果の創出に取り組む。 また、研究推進機構が中心となり、新たな知財戦略の確立と更なる産学協創推進体制の整備を進めることにより、民間企業等との組織対組織による包括連携協定の締結、協創連携講座・部門の設置、大型共同研究契約の締結等、産学協創を加速させる。							
当該組織	研究推進機構・研究推進部							
評価指標区分	評価指標 【■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)】	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標254]	【7-1-1】民間企業等からの共同研究受入金額(累計値)(IRセクションで集計)	第3期総額より10%増(約18億円以上)	361,356,681円					
■[指標259]	【7-1-2】社会実装につながる研究成果の創出件数(累計値)	第4期終了時累計6件以上	12件					
■[指標260]	【7-1-3】大型共同研究の契約件数	第4期年平均5件以上	7件					
中期計画7-1		進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績56	乾燥地の持続性向上に資するイノベーション創出研究【取組①】	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績57	鳥取大学協創連携部門を活用した企業との共同研究開発【取組②】	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績58	医工農連携による協創型異分野融合研究プロジェクト【取組③】	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績59	各部局におけるイノベーションに係る研究【取組④】	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績60	産学協創推進体制の整備状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					
実績61	民間企業等との組織対組織による産学協創を加速させる取組状況	進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			III					

I 教育研究の質の向上 ― 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

中期目標【8】	国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。⑩								
中期計画8-1	乾燥地科学分野における共同利用・共同研究拠点として国際化・人材育成・イノベーション創出等の機能を強化するとともに、国際乾燥地研究教育機構国際協創DX部門(仮称)の設置・活用による企業、海外機関等とのパートナーシップ構築、海外拠点大学とのハイブリッド研究教育システムの構築、多様な資金を活用した研究・社会実装活動等に取り組む。								
当該組織	乾燥地研究センター								
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
■[指標273]	【8-1-1】共同利用・共同研究拠点における国際共同研究(海外研究者を含む)の件数割合	第4期終了時30%以上 (第3期:250件)	33件						
			13.2%						
中期計画8-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			Ⅲ						
実績62	共同利用・共同研究拠点における国際化・人材育成・イノベーション創出等の機能強化に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			Ⅲ						
実績63	国際乾燥地研究教育機構における関連機関とのパートナーシップ構築等の取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			Ⅲ						

I 教育研究の質の向上 ― 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

中期目標【9】	世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院)②⑩							
中期計画9-1	低侵襲外科センターにおけるより高度なチーム医療の実践、臨床解剖教育研修センターを活用したロボット手術等の新たな術式の開発、若手医療者への技術・倫理教育の強化、国産手術支援ロボットの導入やAIを活用した医療の推進等を行い、安全性の高い医療の提供を行う。 また、特定臨床研究の推進等を通じて、新規の診断及び治療法の開発に結びつける。							
当該組織	医学部附属病院							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標279]	【9-1-1】ロボット手術件数(累計値)	第4期終了時累計1,200件以上	475件					
■[指標288]	【9-1-2】医学部附属病院主導による新規特定臨床研究の承認件数	年間2件以上	2回					
中期計画9-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績64	低侵襲外科センターにおけるより高度なチーム医療の実践状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績65	臨床解剖教育研修センターを活用したロボット手術等の新たな術式の開発状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績66	若手医療者への技術・倫理教育の強化に向けた取組状況 ◆ 若手医療者への技術・倫理教育の強化として、手術手技検討会、緊急ロールアウトシミュレーション及び臨床解剖教育センターを利用した手術手技トレーニングを行う	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績67	国産手術支援ロボットの導入やAIを活用した医療の推進 ◆ 国産手術支援ロボットの導入やDXを活用した医療の推進として、遠隔操作・指導が可能な国産手術支援ロボットを使用する術式を増やすことを示す。	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績68	新規の診断及び治療法の開発状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 — 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

中期目標 【9】	世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院)⑳							
中期計画 9-2 1-3	地域密着型医療機器開発拠点として病院を開放した「共学講座」を展開し、医療と工業の両分野に明るい医療産業人材や医療産業を熟知し、その定着・拡大に資する医療産業支援人材の育成に取り組む。 また、地方自治体、企業と連携し医療産業集積地域の構築に向けて、自治体、企業、学生等の様々なステークスホルダーが共創する山陰医療機器バレー(仮称)のプラットフォームを構築する。							
当該組織	医学部附属病院							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標290]	【1-3-1】【9-2-1】共学講座の受講者数(累計値)	第4期終了時累計24名以上	4名					
■[指標294]	【1-3-2】【9-2-2】ヘルスケア関連機器等の実証完了件数(累計値)	第4期終了時累計3件以上	1件					
■[指標295]	【1-3-3】【9-2-3】特許出願件数(累計値)	第4期終了時累計6件以上	1件					
中期計画9-2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績69	「共学講座」による医療産業支援人材の育成に係る取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績70	山陰医療機器バレー(仮称)のプラットフォームの構築	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 — 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

中期目標【9】	世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院)⑳							
中期計画9-3	鳥取県西部圏域における急性期四病院との連携協定に基づいた幅広い分野における地域医療機関との連携や対象範囲の拡大による連携強化、令和2年度から運用を開始したオンライン診療予約「紹介統合WEBシステム」の鳥取県全医療機関への早期普及等に取り組む。							
当該組織	医学部附属病院							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標302]	【9-3-1】入退院支援加算件数(累計値)	第4期終了時累計24,000件以上	4,803件					
■[指標303]	【9-3-2】「紹介統合WEBシステム」の利用医療機関普及率	第4期終了時40%以上	72.95%					
中期計画9-3		進捗判定*(Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績71	幅広い分野における地域医療機関との連携や対象範囲の拡大による連携強化に向けた取組状況	進捗判定*(Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績72	オンライン診療予約「紹介統合WEBシステム」の鳥取県全医療機関への早期普及に向けた取組状況	進捗判定*(Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

I 教育研究の質の向上 — 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

中期目標【9】	世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院)⑳							
中期計画9-4	看護師の特定行為研修を推進し、高度かつ専門的な知識・技術力の向上を目指す。							
当該組織	医学部附属病院							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標311]	【9-4-1】特定看護師研修の修了者数(累計値) [読替:看護師の特定行為研修における特定行為区分の延べ修了者数]	第4期終了時(延べ修了者)累計78名以上	27名					
中期計画9-4		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績73	看護師の特定行為研修に係る取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標【10】	内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②								
中期計画10-1	ガバナンス体制の強化に向けて、学長リーダーシップのもと、執行部において国立大学法人ガバナンス・コード実施状況の点検及び適合状況の判定を毎年度実施するとともに、経営協議会や監事による確認結果への対応や公表等に継続して取り組む。 業務の有効性及び効率性の向上、法令遵守の促進等を行うため、学長をトップとした内部統制委員会を置き、役職員が行う自己点検等の日常的モニタリングや独立的評価の結果により内部統制システムの有効性確認を継続的に実施する。また、必要に応じて本システムの見直しを行う。								
当該組織	総務企画部								
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
■	【10-1-1】ガバナンス・コード適合状況報告書の公表	毎年度実施	公表済						
■	【10-1-2】内部統制システムの運用状況(【毎年度実施】内部統制委員会による内部統制活動の自己点検実施率100%、内部統制活動のモニタリング、実施上の課題等の把握・共有、見直しや改善した取組状況、独立的評価等の結果に基づく有効性確認)	毎年度実施	①内部統制委員会による内部統制活動の自己点検実施率100%【2点】 ②内部統制活動のモニタリング、実施上の課題等の把握・共有、見直しや改善した取組状況実施上の課題等把握、見直しや改善の状況【2点】 ③独立的評価等の結果に基づく有効性確認【2点】						
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上(判定:C～S)	A						
中期計画10-1		進捗判定*(I～V)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9	
実績74	執行部における国立大学法人ガバナンス・コード実施状況の点検及び適合状況の判定	進捗判定*(I～V)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9	
実績75	経営協議会や監事による確認結果への対応状況	進捗判定*(I～V)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9	
実績76	内部統制委員会における内部統制システムの有効性確認	進捗判定*(I～V)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9	

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標【10】	内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②)							
中期計画10-2	戦略的な大学マネジメントの確立を目指し、経営を担い得る学内人材を計画的に育成するため、令和2年度に策定した「鳥取大学における経営人材育成方針」に基づき、教職員の学長特別補佐への積極的登用、大学運営に資する会議体への参画機会の付与、国立大学協会等が実施する多様な啓発機会への参加促進等に取り組む。 学外者の経験と知見を生かした大学経営を推進するため、「鳥取大学経営協議会学外委員の選考方針」に基づいた委員の任命、経営協議会の審議事項とは別に経営上の課題について意見交換を行う「討議」の実施、多様なステークホルダーとの対話機会の設定等により、執行部体制における経営機能の強化に取り組む。							
当該組織	総務企画部							
評価指標区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標327]	【10-2-1】大学経営参画機会の付与件数	年間2件以上	6件					
■[指標343]	【10-2-2】経営協議会の「討議」テーマの設定件数	年間2件以上	2回					
中期計画10-2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
		Ⅲ						
実績77	経営人材育成に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
		Ⅲ						
実績78	執行部体制における経営機能の強化に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
		Ⅲ						
実績79	執行部における附属学校園に関する検討体制の整備と検討状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
		Ⅲ						

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標 【11】	大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②							
中期計画 11-1	鳥取大学ビジョン2030に掲げる新たな教育研究ニーズへの対応、安全で快適なキャンパス、利用者の多様性等に対応したキャンパスの整備を推進するため、「キャンパスマスタープラン2022」や「インフラの長寿命化計画(個別施設計画)」に基づき、施設・環境委員会において、以下に示す 施設整備及び施設マネジメントに全学的かつ継続的に取り組む 。 ・施設設備については、学長裁量経費による重点的・計画的な予算措置のほか、施設整備費補助金やスペースチャージ等の多様な財源を活用し、施設の長寿命化、高効率設備への更新、防災・減災対策や安全・防犯対策の強化等を実施する。 ・施設マネジメントとして教育研究活動の進展を図るため、「鳥取大学における施設の有効活用に関する規定」に基づく 施設の有効活用調査を実施し、学内スペースの高利用率の確保、共用の促進等を行う 。また、エネルギー使用の合理化を図るため、「鳥取大学エネルギー管理規定」に基づき、 省エネルギー活動等に取り組むとともに、必要に応じて利用者や社会的ニーズに対応した整備計画に見直す 。							
当該組織	施設環境部							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標354]	【11-1-1】長寿命化改修の施工面積	第4期終了時 18,000㎡以上	6,210㎡					
■[指標355]	【11-1-2】機能向上改修の実施延床面積	第4期終了時 5,500㎡以上	1,250㎡					
■[指標368]	【11-1-3】有効活用調査を踏まえた改善件数	第4期終了時累計 10件以上	17件					
■[指標369]	【11-1-4】高効率設備への更新による使用エネルギー削減効果	第4期終了時 4,500GJ以上	891GJ					
中期計画11-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績80	施設の長寿命化に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績81	高効率設備への更新に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績82	防災・減災対策や安全・防犯対策の強化に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績83	施設の有効活用調査の実施及び改善に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績84	省エネルギー活動に関する取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標 【11】	大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②							
中期計画 11-2	研究設備の有効利用を促進するため、「鳥取大学研究設備整備・運用ポリシー（仮称）」を制定するとともに、研究推進機構が中心となり、研究設備の共用を推進するためのコアファシリティを構築する。 研究推進機構研究基盤センターにおいて、 本学の現有設備の利用状況、他大学等の研究設備の学外共用の可否等について調査・分析を行い、研究設備の整備計画（新規・更新及びリユース）の立案・見直しを行う。 また、運営費交付金のみならず研究者が獲得した外部資金、研究設備の利用料収入等の多様な財源を活用し、 研究設備の計画的な整備と安定的な運用を行える体制を整備する。							
当該組織	研究推進機構・研究推進部							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標379]	【11-2-1】【6-2-2】研究設備の共同利用件数(累計値)	第3期総件数より 10%増(●件以上)	9,583件					
■[指標380]	【11-2-2】研究設備の利用料収入(累計値)	第3期総収入より 10%増(148,000千 円以上)	15,493,832円					
中期計画11-2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績85	「鳥取大学研究設備整備・運用ポリシー(仮称)」の制定 研究設備の共用を推進するためのコアファシリティの構築状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績86	研究設備に関する調査・分析状況(本学の現有設備の利用状況、他大学等の研究設備 の学外共用の可否等)【6-2(A)がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績87	研究設備の整備計画(新規・更新及びリユース)の立案・見直し状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績88	研究設備の計画的な整備と安定的な運用を行える体制の整備状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

中期目標	公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。②③							
【12】								
中期計画 12-1	競争的資金、民間資金、寄附金等の獲得力を強化して財源の多角化を進めるため、科研費等の競争的資金獲得に向けた支援機能の強化、保有資産等の活用による新たな収入源の確保、企業との組織対組織の産学協創による大型共同研究費の獲得、「鳥取大学みらい基金」等の寄附金増加に向けた活動、「資金運用方針」に基づく収益性や安全性を考慮した資産運用等に取り組む。							
当該組織	研究推進機構・研究推進部、財務部							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標395]	【12-1-1】【7-1-3】 大型共同研究の契約件数(平均値)	第4期年平均5件以上	7件					
■[指標396]	【12-1-2】【7-1-1】 民間企業等からの共同研究受入金額(累計値)	第3期総額より10%増(約18億円以上)	342,491,502円					
■[指標397]	【12-1-3】「鳥取大学みらい基金」の年間平均収入額(大口受入を除く)	第3期年間平均収入額より第4期終了時10%増(約300万円以上)	3,067,500円					
中期計画12-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績89	科研費等の競争的資金獲得に向けた支援機能の強化【6-2(A)がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績90	保有資産等の活用による新たな収入源の確保に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績91	企業との組織対組織の産学協創による大型共同研究費の獲得に向けた取組状況【7-1(B)がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績92	「鳥取大学みらい基金」等の寄附金増加に向けた活動状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績93	「資金運用方針」に基づく収益性や安全性を考慮した資産運用に関する取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

中期目標 【12】	公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。 ⁽²³⁾							
中期計画 12-2	コストの見える化、経費の削減、重点的な投資等のメリハリある財務運営を行うため、部局別予算執行状況の可視化や組織コストの算定、ステークホルダー向け財務広報活動の導入、「大学経費削減推進会議」や「病院経費削減推進会議」による管理的経費の削減活動、本学の強み・特色への重点化や弱点克服に向けた戦略的な予算配分、目的積立金を活用した中長期的な大型設備・施設の整備等に取り組む。 目的積立金を活用した計画として、附属病院では、地域から求められる機能の強化や高度先進医療の実現及び働きやすさに資する次世代型病院の再整備計画を検討し、再整備計画を含む持続的な病院経営を行い、安定的な病院経営基盤の確保に取り組む。また、病棟クリーンルーム及び療養環境改善に係る施設設備事業を実施する。							
当該組織	財務部、附属病院							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標411]	【12-2-1】管理的経費の抑制	第3期の水準維持 (一般管理費比率 2.90%未満)	2.83%					
■[指標412]	【12-2-2】戦略的予算の配分額割合	第4期最終年度 5%増(第4期初 年度比較)	710,235,000円					
中期計画12-2		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績94	部局別予算執行状況の可視化や組織コストの算定に関する取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績95	ステークホルダー向け財務広報活動の導入に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績96	「大学経費削減推進会議」や「病院経費削減推進会議」による管理的経費の削減活動状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績97	本学の強み・特色への重点化や弱点克服に向けた戦略的な予算配分状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績98	目的積立金を活用した中長期的な大型設備・施設の整備状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績99	次世代型病院の再整備計画に関する取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

中期目標	外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。②④							
【13】								
中期計画 13-1	本学の教育研究活動における質保証、大学経営の質向上や機能強化を目指し、鳥取大学学則及び「鳥取大学における内部質保証に関する規則」、客観的なデータや情報等に基づき、全学及び各学部・研究科において、教育プログラム等に関する教育の自己点検・評価、中期計画及び設定した評価指標の年度点検、法人評価に関する自己点検・評価等を継続的に実施するとともに、学長をトップとした「大学改革推進会議」において、点検・評価結果等の情報共有及び全学的観点での検討を行う。 全学的な検討結果、学外者による意見等のうち改善・向上が必要な事項については、大学改革推進会議において対応措置の実施計画の作成・進捗管理を行い、全学として教育研究活動における内部質保証の推進や当該項目の改善・向上に取り組む。 なお、本学で実施した自己点検・評価やステークホルダー向け財務広報活動の結果については、本学公式Webサイトにおいて公表する。							
当該組織	大学評価室・総務企画部							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標435]	【13-1-1】中期計画評価指標の年度点検状況(【毎年度実施】法人評価に係る自己点検・評価実施率100%、各中期計画に設定した評価指標(学外・学内)のモニタリング、執行部による当該部局に対する評価ヒアリング、モニタリングやヒアリングの結果に基づく進捗管理)	毎年度実施	①法人評価に係る自己点検・評価実施率100%(2点) ②中期計画に設定した評価指標(学外・学内)のモニタリング(一) ③執行部による当該部局に対する評価ヒアリング(3点) ④モニタリングやヒアリングの結果に基づく進捗管理(R5年度以降実施)(一) 点)					
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上 (判定:C~S)	S					
■[指標445]	【13-1-2】自己点検・評価結果等の公表状況(【毎年度実施】①教育プログラム等の自己点検・評価結果、②法人評価の自己点検・評価結果、③教員の個人業績評価結果の学外公表)	毎年度実施	①教育プログラム等の自己点検・評価結果(2点) ②法人評価の自己点検・評価結果(2点) ③教員の個人業績評価結果の学外公表(2点)					
総合的な評価指標に関する到達度判定			A					

中期計画13-1		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績100	教育支援委員会等における教育プログラム等に関する教育の自己点検・評価の実施状況【2-1(A)がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績101	評価委員会における中期計画及び設定した評価指標の年度点検の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績102	法人評価に関する自己点検・評価の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績103	大学改革推進会議における自己点検・評価結果等の情報共有、対応措置の実施計画の進捗管理、改善・向上が必要な事項への対応等に関する取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			R05実施予定					
実績104	自己点検・評価結果等の情報公表	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

中期目標 【13】	外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それをういたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。②							
中期計画 13-2	すべてのステークホルダーに対して共感と賛同が得られるような広報戦略を新たに策定するとともに、大学案内や広報誌「風紋」等の媒体を通じて、特色ある教育研究活動やその成果、社会貢献や地域連携の取組等の情報を分かりやすく発信する。 特に、本学公式Webサイトでの情報発信を重視し、他の媒体から本サイトへの来訪を促し、目的情報が探しやすく、深掘りができる構造に変更する。 また、学生広報スタッフの育成と活用、広報に係るリスク管理体制の点検、速報性が高いソーシャルメディアの活用、正確でオープンな情報の定期的発信等に取り組む。							
当該組織	総務企画部、附属病院							
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
■[指標455]	【13-2-3】公式Webサイト(トップページ)へのアクセス件数[国内・国外]	第4期年平均 660,000件以上	880,670件					
■[指標469]	【13-2-1】プレスリリース件数	第4期年平均100 件以上	80件					
■[指標470]	【13-2-2】メディア掲載・報道件数	第4期年平均550 件以上	578件					
中期計画13-2		進捗判定* (I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績105	新たな広報戦略の策定状況	進捗判定*	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績106	特色ある教育研究活動やその成果、社会貢献や地域連携の取組等の情報を分かりやすく発信する広報活動状況	進捗判定*	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績107	公式Webサイトの改善状況(他の媒体から本サイトへの来訪を促し、目的情報が探しやすく、深掘りができる構造に変更するなど)	進捗判定*	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績108	学生広報スタッフの育成と活用状況	進捗判定* (I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績109	広報に係るリスク管理体制の点検状況	進捗判定* (I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績110	ソーシャルメディアの活用状況	進捗判定* (I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績111	正確でオープンな情報の定期的な発信状況	進捗判定* (I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9

V その他業務運営に関する重要事項

中期目標 【14】	AI・RPA(Robotic Process Automation)をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②⑤						
中期計画 14-1	デジタル・キャンパスの構築、教職員の業務見直し、デジタル技術等を取り入れた業務効率化等を目指し、デジタルキャンパス推進委員会(仮称)で策定した全学DX(デジタルトランスフォーメーション)推進構想に基づく大学全体のDX化に取り組むとともに、情報基盤機構と技術部の協働による技術支援を受けつつ、既存業務システムの計画的最適化、学内文書のペーパーレス化、テレワークに対応した業務システムの確立、電子決裁システムの導入や定型業務の自動化に関する検討等に取り組む。 情報コンプライアンス及び情報セキュリティの強化に向けて、先進的な情報セキュリティシステムの整備、鳥取大学情報セキュリティインシデント対応チーム(TU-CSIRT)の活動、学内ネットワーク利用の資格審査、e-Learning等を有効活用した情報セキュリティ教育の充実等に取り組む。						
当該組織	情報基盤機構						
評価指標 区分	評価指標 [■:提出用、▲:提出用(サブ項目)、□:学内用(目標値あり)、 ○:学内用(目標値なし)、●:学内用(ビジョン2030)]	目標値	実績値				
			R4	R5	R6	R7	R8
■[指標485]	【14-1-1】学内会議資料のオンラインストレージ利用状況(【毎年度実施】「業務DX推進計画」の項目別達成率による計画の進捗管理、全学的な会議等における資料のペーパーレス化(デジタル化)実施率(第4期終了時100%)、会議資料のオンラインストレージ保存率(第4期終了時100%))	毎年度実施	①「業務DX推進計画」の項目別達成率による計画の進捗管理(0点) ②全学的な会議等における資料のペーパーレス化(デジタル化)実施率(第4期終了時100%)(2点) ③会議資料のオンラインストレージ保存率(第4期終了時100%)(2点)				
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上 (判定:C~S)	C				

■[指標496]	【14-1-2】情報セキュリティ対策やセキュリティ意識向上活動の強化(本学で開発した学内ネットワーク利用の資格審査完了率(第4期終了時100%)、技術的セキュリティ対策の実施(年1件以上)、インシデント対応体制(TU-CSIRT)の運用・見直し)	毎年度実施	①本学で開発した学内ネットワーク利用の資格審査完了率(第4期終了時100%)(1点) ②技術的セキュリティ対策の実施(年1件以上)(3点) ③インシデント対応体制(TU-CSIRT)の運用・見直し(2点)						
総合的な評価指標に関する到達度判定		到達状況がA以上(判定:C~S)	A						
■[指標497]	【14-1-3】情報セキュリティ教育の受講率【全学】	第4期終了時100%	29%						
■[指標498]	【14-1-3】情報セキュリティ教育の受講率【全学共通科目「情報リテラシ」(学生向け)】	第4期終了時100%	100%						
中期計画14-1		進捗判定*(I~V)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
実績112	全学DX(デジタルトランスフォーメーション)推進構想に基づく大学全体のDX化計画の進捗状況	進捗判定*(I~V)	II						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
実績113	業務運営のDX化(業務効率化)に向けた取組状況	進捗判定*(I~V)	I						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
実績114	先進的な情報セキュリティシステムの整備状況	進捗判定*(I~V)	III						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
実績115	鳥取大学情報セキュリティインシデント対応チーム(TU-CSIRT)の活動状況	進捗判定*(I~V)	III						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	
実績116	学内ネットワーク利用の資格審査に関する取組状況	進捗判定*(I~V)	II						
			R4	R5	R6	R7	R8	R9	

X その他 2. 人事に関する計画 中期計画10-2(A)	1) 学長のリーダーシップの下で、強み・特色を活かした大学運営を行うため、 効果的な教員配置により学内資源の再配分 を行う。 2) 鳥取大学女性活躍推進に係る行動計画に基づき、 女性教員の採用を推進 するとともに、 仕事と家庭の両立支援のための研究サポート を継続して実施する。 3) 教員については、広く教育研究に優れた者を求めるため、原則公募制により採用を行い、 多様で優秀な人材を確保 する。 4) 大学を取り巻く環境の変化や高度化・複雑化する諸課題への対応、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、 教職員のSD・FDを推進 する。 5) 教職員のうち、将来の法人経営を担い得る適性を有する人材に、早い段階から法人経営の感覚を身に付けさせるなどして、 長期的な視点に立って、次代を担う経営人材を育成 する							
	中期計画【人事に関する計画】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績118 効果的な教員配置(学内資源の再配分)の実施状況及び関連する取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績119 鳥取大学女性活躍推進に係る行動計画に基づく女性教員の採用・雇用状況及び関連する取組【中期計画10-2(A):評価指標がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績120 仕事と家庭の両立支援のための研究サポートに関する取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
X その他 3. コンプライアンスに関する計画 中期計画10-1(B)	実績121 多様で優秀な人材の確保に関する取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績122 教職員のSD・FDを推進する取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績123 次代を担う経営人材を育成に関する取組 【中期計画10-2(A):経営人材育成に向けた取組状況がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	中期計画【コンプライアンスに関する計画】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績124 内部統制システムの整備・運用に関する取組【中期計画10-1(B):内部統制委員会における内部統制システムの有効性確認がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
X その他 3. コンプライアンスに関する計画 中期計画10-1(B)	1) 教職員による法令等遵守の促進を図り、法人業務の適正を確保するため、「鳥取大学内部統制規則」に基づき、 学長を責任者とした「内部統制システム」を整備し運用 する。【中期計画10-1(B):学長が責任者として「内部統制システム」を整備し運用する。】 2) 本学(個人又は組織)に対する法令違反行為の早期発見と是正を図り、社会的信頼の維持及び業務運営の公正性の確保の強化に資することを目的として、 公益通報を受け付ける窓口を学内及び学外に設置し、通報の受付、処理を行う仕組みを整備し運用 する。 3) 研究不正防止及び公的研究費不正使用防止のため 、最高管理責任者、統括管理責任者等の役割、責任体系を明確化した不正防止体制のもと、 研究倫理教育、コンプライアンス教育及び啓発活動の実施、研究費使用に係る内部監査の実施等 の取組を行う。							
	中期計画【コンプライアンスに関する計画】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績124 内部統制システムの整備・運用に関する取組【中期計画10-1(B):内部統制委員会における内部統制システムの有効性確認がメイン】	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績126 研究活動の不正行為防止に向けた取組や研究者及び学生に対する研究倫理教育に関する取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
	実績127 公的研究費等の不正防止に向けた取組	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
X その他 3. コンプライアンスに関する計画 中期計画10-1(B)	実績128 研究費使用に係る内部監査の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9

X その他	1)学長の指揮の下、各事業場の安全衛生委員会において職場の安全衛生に関し調査・審議し、法令遵守の徹底を図るとともに、職員の安全衛生に必要な措置を講ずる。 2)組織として、持続的な安全衛生管理体制を維持するため、第一種衛生管理者等の有資格者の計画的養成を図るとともに、有資格者に対しては、社会情勢に応じた安全衛生に関する知識を習得させることを目的とした研修を継続的に実施する。 3)化学物質管理のための知識の周知及び資質向上のための研修会や、防災意識の高揚を図ることを目的とした総合防災訓練等に取り組む。							
	4. 安全管理に関する計							
中期計画【安全管理に関する計画】		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績129	職場の安全衛生に関する調査・審議に関する実施状況及び職員の安全衛生に向けた取組状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	Ⅲ					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績130	第一種衛生管理者等の有資格者の計画的養成に関する取組状況及び有資格者に対する研修会の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	Ⅲ					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績131	化学物質管理に関する研修会の実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	Ⅲ					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9
実績132	総合防災訓練に関する実施状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	Ⅲ					
			R4	R5	R6	R7	R8	R9

Ⅹ その他 7. マイナンバーカードの普及促進に関する計画	1)教職員に対しては、採用時の手続き案内にマイナンバーカード取得促進について記載するとともに、マイナンバーカード取得促進・利用促進につながる情報を教職員向けのポータルサイト等に掲載し周知する。また、自治体と連携した出張申請受付を実施する。 2)学生に対しては、学部・研究科の新入生オリエンテーションにおいて、配付している資料にマイナンバーカードの普及促進に係る説明資料を追加し、周知する。							
	中期計画【マイナンバーカードの普及促進に関する計画】		進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8
実績133	教職員に対するマイナンバーカード取得促進・利用促進に向けた周知状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					
実績134	学生(新入生)に対するマイナンバーカード取得促進・利用促進に向けた周知状況	進捗判定* (Ⅰ～Ⅴ)	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			Ⅲ					

附属学校の存在意義の明確化	附属学校は、学部・研究科等における教育研究に組織的に協力することや、教育実習の実施への協力を行うこと等を通じて、附属学校の本来の設置趣旨に基づいた活動を推進するとともに、その規模や在り方を検討し、最新の教育課題に率先して取り組む地域のモデル校としての役割等、存在意義や役割及び特色を明確にすることとする。 【出典：国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（令和3年7月2日：3文科高376号 通知）／記2 教育研究、法人運営等の業務全般の見直し／（1）教育研究等の質の向上／⑪ 附属学校の存在意義の明確化】							
	中期計画【附属学校に関する計画】		進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅱ	R5	R6	R7	R8
実績135	学部・研究科等の教育研究活動に対する組織的な協力状況及び関連する取組状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
			R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績136	教育実習の実施に関する協力状況及び関連する取組状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
			R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績137	地域のモデル校としての活動状況や様々な教育課題の研究開発の成果公表等に関する取組状況	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
			R4 Ⅲ	R5	R6	R7	R8	R9
実績138	地域の教育課題の解決に向けた活動・取組状況（附属学校の存在意義や役割の明確化）	進捗判定* （Ⅰ～Ⅴ）	R4 Ⅱ	R5	R6	R7	R8	R9
			R4 Ⅱ	R5	R6	R7	R8	R9